石桜同窓会報

石桜同窓会
盛岡市長田町
岩手高等学校内
振替 盛岡3936
印刷 山口北州印刷

創立60周年記念事業

校舎・体育館・プール今年中に完成

母校岩手中・高等学校は10年前、同窓生各位の絶大なご支援のもとに、新校舎の竣工をみましたが、故前理事長は創立60周年記念事業として校舎・体育館・プール建設を計画、三田義之新理事長はその遺志を継承。これら施設の建設は本年4月から着工しております。

工費の総額は五億七千万円。資金内訳としては、自己資金一億七千万円、借入金三億五千万円、この他三千万円を石桜同窓会各位による寄付金によって賄いたいとの計画で、募金のお願いはすでに同窓生各位に郵送され、ご承知の通りです。

校舎建設は普通教室6室のほかLL教室1室、体育教官室などで、昨年度高校入学生は三六〇名を数え、従来の教室のやりくりでは十分な教育機能が果たせないことに基くものです。

またLL教室の新設も英語教育の充実を図るものとして期待されています。

プールはほぼ完成、他の施設も今年中に完成の予定です。

当初計画の外構工事費について、さらにクラブ活動のための部室を整備することと、グランドの整備費および旧雨天体操場の解体費として二千万円を追加、この分については同窓生他の法人関係からの寄付を仰ぐこととして、最近改めて関係先に依頼状が出されました。

経費概算は次のとおりです。

プール	四二、三〇〇千円
校舎・体育館	四七一、九〇〇千円
外構工事費	五六、六一〇千円
計	五億七千万円

目下募金たけなわ

＝より一層のご協力を＝

母校！ それは良きにつけ悪しきにつけ青春の情熱を燃やし、自己表現に向けて精進した道場である。

同窓！ それは人知の及ばぬ不可思議な縁に結ばれて石桜の象徴のもと、同じ窓辺によりあい、知性を磨き、豊かな情操を培った同志である。従って母校・同窓なるものは具体的な生活感情の中に存在するものであって、抽象的観念的なものではない。それならばこそ同窓ときけば、ただそれだけで親近を覚え、心通ずるものを直感するのである。

母校・同窓とは洵に不可解な魅力をもつものだと思う。

さて、母校創立以来既に六十有二年。この間各界各層に亘って必須にして欠くべからざる有為の人材輩出は枚挙にいとまなく、石桜精神の発揚いよいよ旺んなるものがある。在校生亦先輩の後を継ぐべく鋭意研鑽にいそしんでおり、その前途期すべきもののあることは喜びにたえないところである。

この時に当たり学校法人岩手奨学会においては、かかる校運の進捗に対応し更にその伸展をはかるべく、かねて先代三田義清理事長の宿願であった体育館の新設を始め、プールの移転建造、生徒増に伴う普通教室六教室の増築、さらには語学教育強化の一方策としてLL教室の設置など総額五億七千万円にのぼる大事業に着工され、十二月には全施設の竣工と設備の完成が予定され、ここに岩手中・高等学校の一大飛躍が展開されようとしている。在校職員生徒はもとより私達同窓生にとっても共々に欣快且つ感謝にたえないところである。

然しながら与えられる喜びよりも共に力を合せて創造する喜びは更に大きく、母校、同窓の紐帯を一層強固なものにすること必然である。換言すれば母校と同窓との紐帯のないところに母校という実感はあり得ず、母校というものゝ実感をもち得ずして同窓の欣快はあり得ないということなのである。誇りある母校たり得るか否かは実にこの共感、紐帯の意識の如何にかゝわっているのではなかろうか。

こうした意味から過般応分のご協力をお願いしたのであるが、現在漸くその半ばに達してやゝ停滞の状況にあり、今後の協賛に待つところ多大である。事情ご賢察いただき、早急にご支援下さいますようお願いするところである。尚、同窓会もこの機に応じて〝石桜同窓会報〟の復刊を企図し、母校、同窓間の交流を密にすると共に、各位の提言の窓口とも致したいので、思いつかれ次第常時ご寄稿下さるようお願いして拙稿を終ることにする。

石桜同窓会報復刊に寄せて

石桜同窓会々長 松見得明

同窓生個人からの申込み相つぐ

同窓生個人の寄付金は文書でご承知の通り、一口二万円を中心にして旧1回生から旧10回生までが一万円、旧11回生から新32回生までが二万円、最近の卒業生は五千円という一応の枠が同窓会理事会で諒承され、本紙2面に掲載のように五百名をこえる各位から募金が寄せられています。

しかし目標額までにまだ遠く、より広い支援の輪によってご協力をを仰がねばなりません。

法人寄付については免税措置が決定

法人関係募集要項は左のように決まりましたが、寄付金の免税措置が受けられることになりましたので、寄付申込書の送付と送金により、免税に必要な私学振興財団からの領収証が送られることになります。

〈法人募金要項〉

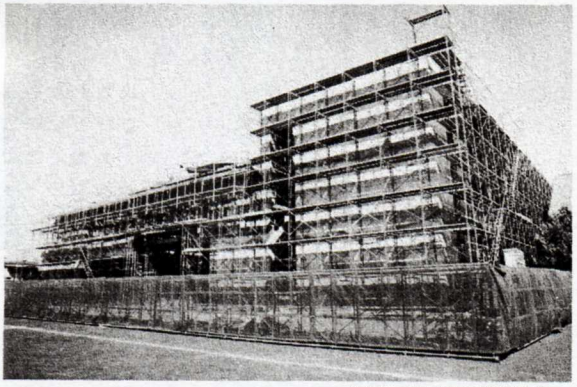
募集金額 金二千万円也
一口の金額 金五万円也
（但し口数金額は任意）

募集期間 昭和62年10月1日より63年3月末日

申込ならびに払込方法
申込書に所定の事項を記載の上、なるべく申込みと同時に払込みのこと。

申込ならびに払込先
盛岡市中央通1丁目1－23号
学校法人岩手奨学会
岩手中・高等学校
校舎体育館等建設委員会

時節柄ご出費も多いと思いますが、母校建学の精神を昂揚、新しい時代にいき、永く未来への展望を拓くためにもぜひ特段のご協力を願うものです。



外壁工事が進む増築教室

本年度総会は10月16日開催

石桜同窓会本年度総会は、10月16日午後6時から盛岡ターミナルホテルで開催され、次のような61年度決算、62年度予定が審議される予定である。

昭和62年度同窓会予算案		昭和61年度同窓会決算報告	
Ⅰ 経常部		Ⅰ 経常部	
収入の部	（円）	収入の部	（円）
科目	本年度予算額	科目	決算額
会費	729,000	会費	402,000
入会金	486,000	入会金	268,000
総会会券代	400,000	総会会券代	420,000
利子	10,000	利子	13,776
雑収入	60,000	雑収入	742,021
繰越金	1,940,286	繰越金	5,770,146
合計	3,625,286	合計	7,615,943
支出の部		支出の部	
会議費	800,000	会議費	588,687
石桜会補助金	300,000	石桜会補助金	195,000
印刷費	230,000	印刷費	4,480,220
慶弔費	100,000	慶弔費	70,000
通信費	100,000	通信費	65,010
事務費	20,000	事務費	8,320
事務手当	60,000	事務手当	60,000
雑費	300,000	雑費	108,420
基金部編入	1,500,000	基金部編入	100,000
予備費	215,286	予備費	
合計	3,625,286	合計	5,675,657
Ⅱ 特別会計（基金部）		Ⅱ 特別会計（基金部）	
経常部より編入	1,500,000	経常部より編入	100,000
利子	35,000	利子	34,218
繰越金	1,196,921	繰越金	1,062,703
合計	2,731,921	合計	1,196,921

昭和63年度 生徒募集要項

募集人員
（高校）男子…250名
（中学）男子… 20名

願書受付
（高校）1月14日(木)～1月21日(木)
（中学）2月15日(月)～3月4日(金)

試験期日
（高校）2月1日(月)
（中学）3月6日(日)

試験科目
（高校）国語・社会・数学・理科・英語
（中学）国語・算数
◆中学校は授業料を徴収しません。
◆寄宿舎の施設があります。

事務局
岩手県盛岡市長田町7番60号
☎(0196)24－4445(代) 〒020

ほぼ完成のプール

全容を示す校舎模型およそ右半分が増築部分

校風永刻

昭和52年4月に旧校舎を焼失し、翌53年に現在の校舎が完成して以来10年が経過している。中学の授業は加賀野の寄宿舎で、高校の授業は講堂や雨天体操場での合同授業など、今となっては懐かしい思い出の一つである。しかし、当時は皆がそうした現状に不便を感じながらも我慢する以外になかったため、煉瓦模様のモダンな校舎の完成には皆が心から喜び、新しい息吹を入れるのだという意気込みと決意をもったものである。

当時の卒業生は卒業式で「火災は我々に大きな衝撃を与えました。新校舎落成までのプレハブ校舎での生活は決して恵まれた環境ではありませんでしたが、その様な不便な生活の中からいかなる困難にも屈することのない石桜精神を学び得ました。在校生諸君、新校舎落成の時に校長先生の申された訓辞を覚えているでしょうか。新校舎に魂を吹きこむのは君たちであるということを。その時、我々は新しい伝統を造りあげようと決意を新たにしたものでしたが、歳月の流れと共にその決意も忘れられてきています。後輩諸君、もう一度あの時に戻って決意も新たに再出発して下さい」という答辞を読んでいる。

念願の校舎・体育館・プールの完成も間近であるが「新しい息吹を入れる」というにはまさに時を得たりというところであり、この喜びと感謝の心をいつまでも忘れることなく前進していかねばなるまい。

ヤマハピアノ・エレクトーン・ステレオ
伊藤楽器店
盛岡市中央通り1丁目11の12
TEL (24)3854

販売特約店
あなたの記録更新に役立つスポーツ品〔駐車場完備〕
藤沢体育堂
本店／盛岡市大通3丁目2 ☎0196(23)1435
ニチイローズタウン／☎0196(38)1257
盛岡駅ビルフェザン店／☎0196(23)1606
花巻店／☎0198(23)2639

大島紬・結城紬の専門店
中国緞通の専門店
榮屋
盛岡・菜園二丁目
電 0196(54)2291

60周年記念事業募金

醵金者芳名

▽校舎増築、体育館、プールの建設をめざして本年五月スタートした募金は申込者が相つぎ、九月末日現在五一四名一千三十六万円に達しています。△

旧1回生
大澤貢　小原安治　鎌田省一　川畑篤司　儀俄馨　久喜正男　工藤壽一　斉藤久四郎　下杉定人　杉村昌三　高橋兵吉　稗貫明彦　古舘哲郎　道又弥平　村里茂孝　吉田耕造　佐藤全一　丹野寅雄　橋本肇　三島瞱　山口源吉

旧2回生
浅沼農吉　一条威　大竹俊一　川村芳夫　戸嶋正夫　土井尻正次　萩野愛人　米島重悦

旧3回生
猪原光一　小田島順　小田島正夫　佐々木一郎　高橋功　俵田國夫　沼田正夫　松田二郎　三好太郎　山岸忠兵衛

旧4回生
一條龍彦　大澤幸平　大沢善吉　菊池万雄　工藤長一　佐々木長一郎　柴内興宗　富手六郎　中村益三　藤原郁敏　細川福治　道又泰三　八角英二　吉田弥四郎

旧5回生
大嶽益朗　小野整治

旧6回生
鈴木龍雄　三浦正雄

旧7回生
石亀浩道　伊藤光次郎　佐々木勲　佐々木文男

旧8回生
阿子島寛　荒木忠三郎　石沢勉　大澤徳太郎　金沢修一　黄伝明　佐藤武夫　下斗米昌一　藤村清一　松尾景康　村上和夫　吉田兼三

旧九回生
小笠原嵩　兼平竹次郎　軽石正夫　鈴木新一　土川一男　照井安彦　中市敬　中村達雄　萩原弘毅　原正恭

旧10回生
遠藤秀雄　大田正弘　小沢東基　河島光雄　佐藤正吉　寺井常雄　栃内松四郎　村田徹　若山忠一

旧11回生
赤澤敏雄　小沢甚一郎　国定貢　熊谷梅作　佐々木甲子夫　土佐行作

旧12回生
東根清蔵　川村友八　西條共安　佐々木丈郎　澤野亮二　徐耀暄　高橋正　千田成雄　千葉昌二　辻公一郎　吉田大三

旧13回生
赤坂祐三　大西博　杉江忠之助　滝川忠夫　名久井弥七　鰺沢昇　牟岐梧楼　村田剛　吉島一夫　吉田弘

旧14回生
秋津寿男　熊谷敬　佐藤浩　澤田耕　瀬野尾善夫　鶴飼賢一　村井孝　横矢久

旧15回生
阿部定雄　金子実　金田一皐造　武田吉次　足沢至　湯沢一晃

旧16回生
小笠原脩三　斉藤克哉　鷹觜達衛　武田耕太　立花弥太郎　花舘英世　牟岐鹿楼

旧17回生前期
駒嶺功　佐藤良雄　田中淳　水本祐一　武蔵喜治

旧17回生後期
斎藤孝三　佐々木栄一　畑山光昭　細川祐司

旧18回生
出堀寿一　木村祐造　後藤芳　田中利昌　玉沢佳巳　大銑地久男　津軽石保　西在家寛　平野嵩文

新1回生
福士久也　藤村司　和山謙一　青山弘　赤川義英　有原隆司　桜井勇　佐々木哲孝　高橋啓介　野村誠

第2回生
石川裕七　石村圭　伊藤虎之助　井藤博　上野雄一　小田島城二　小山田新平　川村恒三　木村精志　四戸孝丸　下越田益男　鈴木敬治　藤村敏　村上照五郎　山口安男　横川洋一　吉川孝正

第3回生
上田浩司　梅津敏昭　小田島昭夫　小原圭司　金子隆雄　菊地清　近藤義彦　佐々木幸男　佐藤雅美　諏訪道次郎　高橋民明　高橋利男　遠畑勇　村上旺　吉田光政

第4回生
上田勝彦　小野寺哲　小山田良雄　上川晋　清見全弘　金田一隆　今野文雄　鈴木藤吉　高橋善信　高山一元　田鎖清毅　田中一誠　花坂宗三　福田昇　福田博臨　藤澤良雄　村上統一　八重樫昌宏　吉田公雄　吉田昌平

第5回生
秋浜悟史　浅賀康正　安西弘次　木下茂　小林克行　佐々木靖　佐々木美隆　高田一夫　角掛武　吉田勉　米倉司陸　渡辺真由美

第6回生
有原正巳　生内宏一　関久男　立木正勝　千葉正信　原健　細川盤夫

第7回生
熱海宏信　池野正幸　大村純一郎　岡本源一　川村滋　小林隆　坂本義邦　谷藤幸吉　照井昭治　古川知義　村井庫吉　山屋彰男

第8回生
小田島基敦　片岡充　竹花国夫　藤村征支

第9回生
秋津武志　岡本雄二　小林泰宏　佐々木英雄　澤村廣美　高橋章　村井慶一　米内正巳

第10回生
石井隆　小松貞一　須貝雅宏　千代川泰久　中野敦夫　東司　古谷広太郎

第11回生
井上務　及川清吾　小笠原洋光　小原幸司　小山常光　斉藤忍　斎藤正太郎　柴田義春　玉山哲史　中村卓郎　三田地秀衛　村井栄輔

第12回生
加藤奉栄　斉藤祐一　佐藤正明　高橋宏輔　田中紀平　南沢満雄　八重樫昭　吉田正次　吉田武　吉田優　遠藤健悦

第13回生
小笠原克夫　小田栄一　小原紀彰　川村正良　菅野幸　菊池軍次　熊谷義重　小笹勝二　佐藤洸　里見一栄　須賀靖朗　高橋哲夫　日野杉昭雄　八重樫洋　矢羽々俊雄

第14回生
菊池康弥　昆硯司　佐々木一巳　佐藤弘吉　佐藤信雄　瀬川隆司　中村栄孝　松崎修三　武藤正吾

第15回生
肥田秀彦　佐々木初男　鈴木孝二　武田隆弥　田沼昇　栃内秀彦　似内裕　松館剛　渡辺洋一

第16回生
今泉博雄　内館政光　工藤正身　越戸國雄　武藤頴一郎

第16回生
阿部聖朗　小笠原常之　小綿泰樹　後藤尚　佐々木正春　柴内興信　高橋剛　照井駿一　平野均　藤尾東泉　藤根弘康　村上誠

第18回生
砂子田勉　佐々木重夫　田村雄孝　似内孝清

第19回生
今泉利雄　岩本重廣　高橋勉　角田克保　難波保夫　藤岡知昭

第20回生
浦波和郎　岡田泰敬　佐藤健二　千葉満夫　松崎安邦　三田地泰司

第21回生
明戸均　久保友伸　近藤康郎　高松三郎　武田真和　長澤正俊　吉田長久　吉田行夫

第22回生
川原清一　下舘明

第23回生
浅香昭夫　佐々木哲也　細川文男　三田地成幸

第24回生
黒田晋　桜井保典　笹井峰雄　高橋茂之　道又元

第25回生
青山潤也　阿部勝俊　小原洋一　小原能和　斉藤裕保　晴山弘己　藤村悟　向井田岳　吉田祐一

第26回生
井上知法　小野申三　志和宏敏　高橋啓悦　玉沢明徳

第27回生
佐々木頼夫

第28回生
丸橋哲也

第29回生
板橋和彦　箱石隆　藤本達也　山田弘明

第30回生
石塚真明　伊東尚　内堀拓也　木川田真佐美　佐藤学　高橋由美　田口淳　中村義明　八重樫龍介　吉田直弘　吉田昌之

第31回生
近藤尚樹　佐々木均　谷藤敏雄　晴山祥悦

第32回生
角舘秀造　佐藤潤　千葉和久

第33回生
太田耕輔　岡田誠　鎌田孝史　今野克彦　下田靖行　田中茂　梨子洋和　三浦泉　吉田康浩

第34回生
穴澤真一　斉藤晴彦　斉藤幸雄　関克典　鳥居智　吉田英夫

第35回生
岩渕俊明　太田晋　小山田勝行　小西裕之　斎藤修　坂本弘四　佐々木敬博　沢田臣太　田中幹二　永山信　古屋敷俊雄

第36回生
竹花国信　藤原篤　正木宏　水本光一　渡辺昌文

第37回生
相浦明成　青山祐司　帷子博行　金子幸平　工藤克也　坂本千尋　佐藤健彦　関利満　高橋俊夫　富岡靖博　中條智之

第38回生
吉田順一　阿部知彦　犬飼和裕　大川俊一　太田良憲　大矢玄仁　乙部秀弘　小野寺悟　兼平学　熊沢輝久　小林正人　斉藤光広　佐倉一蔵　笹森健　佐藤圭　佐藤浩志　下川原元忠　菅宏樹　瀬川和宏　西野亨　西村和彦　繁田秀一　南舘利祐　村松尚　盛田洋一　吉岡直人　和山成

第39回生
阿部吉智　梅沢佳裕　及川信生　小原秀晴　小山田大助　菊谷和弘　工藤忠寛　久保俊雄　熊谷敦　栗谷川肇　小林勇雄　佐藤克幸　佐藤毅　下河原宏記　高橋利明　田屋義昭　千葉智彰　外岡潤一　中村晋　西野秀俊　野中勝也　東幸男　松坂剛　森和生　八重樫師章

今後ともご協力のほどよろしくお願い致します！

屋根付き展示場
頭金なしで48回払いまでOK！
信用と実績のある
大衆車から高級車まで新車・中古車販売の
TM (有)高橋保自動車商会
盛岡市上堂4丁目　☎41−2009

月星化成株式会社岩手県総代理店
履物総合卸商社
斎福商事株式会社
岩手県紫波郡矢巾町流通センター南一丁目6-4
TEL ㈹ (38) 2131

和洋酒・食料品
株式会社　鍵屋
盛岡市中ノ橋通1丁目5番25号
電話　代表 (24) 2036番

石桜振興会

発足後順調に事業軌道にのる

石桜振興会は、同窓会でもなくPTAでもない立場からクラブ活動を援助し、文化的事業への協力などを行うことによって母校の振興を図り、校風の維持発揚を高める目的を掲げて設立された会である。60年頃に、同窓生の一部から声が上がり、気運も高まって61年から具体的に話が進み、活動が行われている。

石桜振興会会則

第一条　本会は石桜振興会という。

第二条　本会は事務局を岩手高等学校内におく。

第三条　本会は岩手中・高等学校の振興を図り、校風の維持発揚に資することを目的とする。

第四条　本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(一)クラブ活動への援助

(二)教育文化に係る研修活動に対する協力

(三)国際理解及び国際交流活動の推進

(四)その他前条の目的を達成するために必要な事業

第五条　本会の会員は、本会の趣旨に賛同する個人及び団体とする。

第六条　本会に次の役員をおく。

会長　一名
副会長二名
理事　若干名
監事　三名

2会長、副会長、監事は理事会で選出する。

3理事は、PTA、同窓会及び学校から推薦された者をもってあてる。

第七条　会長は本会を代表し会務を統括する。

2副会長は会長を補佐するとともに会長事故あるときはその職務を代行する。

3理事は理事会を構成し、本会の運営に必要な企画および執行にあたる。

4監事は本会の業務および会計を監査する。

第八条　役員の任期は一年とする。ただし補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

2役員は再任されることができる。

3役員は辞任した場合または任期満了の場合においても、後任者が就任するまではその職務を行わなければならない。

4本会に顧問をおくことができる。

第九条　本会の事務を処理するため、事務局長一名、書記一名をおくことができる。

2事務局長および書記は、会長が理事会の同意を得て委嘱する。

3事務局長および書記は、会長の命を受けて事務に従事する。

第十条　本会の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

(一)資産から生ずる収入

(二)その他の収入

第十一条　資産は会長が管理し、その方法は理事会の議決により定める。

第十二条　本会の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

第十三条　本会則の施行について必要な事項は理事会の議決を経て別に定める。

付則

1本会則は昭和六十一年六月五日から施行する。

2本会の設立当初の会計年度は、第十二条の規定にかかわらず、設立した日から昭和六十二年三月三十一日までとする。

事業内容

クラブ活動への援助の手初めとして、太田橋河川敷グランドで練習を行っている野球部に対し、借用金の一部にと松見会長より補助金が贈られた。

また各クラブの監督・コーチ・顧問が集まった交流研修会への援助もなされた。

教育文化事業としては、本校建学の精神の原点である義正翁についての研究を推進することは、極めて自然な成り行きであるとして、「義正翁を語る会」が発足した。

翁没後50年、産業・経済面での巨大な業績については、今なお人の語るところであるが、〝人間義正〟について知る人は年々少なくなってきている。

波瀾万丈、怒濤の生涯は教訓に満ち、魅力あふれる翁の詳細な年譜を完成し、後進の研究（教育）に備えることは当今の責務でもある。

こうした趣旨に基づいて行われた第一回の会合は、昭和62年3月10日、京極に於いて松見得明石桜振興会会長、牟岐梧樓、池野和夫、下河原善嗣郎、竹花國夫、村上照五郎、西在家寛の各氏が出席し、牟岐梧樓氏が会長に選任された。

第二回目は同年5月12日同じく京極において、池野藤兵衛、浅沼季三、藤井茂氏らによる義正翁についての講話を聞き、懇談を行った。山口徳治郎、足沢至、井藤博、村上照五郎、西在家寛氏の6名であった。

以上このような事業の他にも、国際交流活動の推進も行いたいと計画はしているが、システム化するにはまだまだ資金不足の現状である。

会則にある通り、運営資金は主に通常会費ではなく有志による寄付によって賄われるため、種々の会合の機会などを利用してご協力頂きたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

協力者芳名

昭和61年5月より62年9月末日までの協力者は次の通りである。

十万円　太田康三（新七回生）
二万三千円　東京石桜会
六万三千円　総会時有志
五万円　新5回生有志
二万円　若山忠一（10回生）
二万円　日大石桜会有志
四万九千円　都南石桜会
二万一千円　矢巾石桜会
一万九千円　新13回生有志
二万三千円　県庁石桜会
二万四千円　紫波石桜会
一万三千円　胆江石桜会
一万四千円　釜石石桜会
八万一千二百四十円　校長
叙勲祝賀会実行委員会
一万一千円　滝沢石桜会
三万円　雫石石桜会
一万円　新7回生3A有志
一万二千円　新13回生有志
三万九千円　九桜会
四十万円　重暉会
一万二千円　1回生有志
一万六千円　旧15回生有志
一万五千円　新22回生有志
（敬称略）
計　二十三件
一〇六万五千二百四十円

事務局　〒020　岩手県盛岡市長田町7番60号　岩手高等学校内
石桜振興会
郵便振替口座番号
盛岡一一四五一六

クラブ活動奨励のため

同窓会長名の表彰状を伝達

昭和58年11月12日石桜同窓会の席上で、副会長の藤沢省三氏より次のような提案があった。

「母校のクラブ活動を盛んにするために、優秀な成績をあげた部を同窓会で表彰してはどうか。詳細については同窓会事務局と学校に任せる。」

この意見に基づき同年12月8日に松見会長が母校岩手高等学校に見え、話し合いの結果具体案は次のように決定された。

○体育部・文化部共に県下で団体3位、個人3位以上の成績に限る。

○体育部は高総体、県民大会、新人大会以上の競技会とし、文化部はそれに相当するような大会とする。

○競技会、大会毎に表彰する。

○5団体以上の参加があること。

○団体については一律二万円、個人については三千円相当の記念品（レプリカ、トロフィー等）とする。

○校長、教頭、体育・文化の代表教員と同窓会事務局で選考する。

昭和58年度からの体育部・文化部の表彰団体・個人は次の通りである。

昭和58年度

○団体の部
卓球部　高総体　新人大会　第三位
軟式庭球部　高総体　第三位
新人大会　第三位
吹奏楽部　県大会Bクラス　最優秀賞
絵画部　芸術祭　映像部門賞
アイスホッケー部　新人大会　優勝

○個人の部
卓球部　高総体　第三位
軟式庭球部　高総体　第三位
新人大会　第二位
吹奏楽部　県大会Bクラス　最優秀賞
写真部　阿部知彦　高総文化祭最優秀賞

昭和60年度

○団体の部　なし

○個人の部
卓球部　熊沢輝久　桜田　肇　新人大会シングルス　第二位
水泳部　村上知規　高総体二百M背泳　第三位
県選手権二百M背泳　第二位
斉藤博樹　高総体千五百M　自由形　第三位
嶋屋知明　県選手権　四百M個人メドレー　第三位
朝岡将人　高総体百M平泳　第二位
高総体シングルス　第二位
県民大会シングルス　第一位
水泳部　村上知規　高総体百M背泳　第三位
二百M背泳　第二位
嶋屋知明　高総体四百Mメドレー　第二位
新人大会百M自由形　第三位
望月靖浩　高総体百M平泳　第二位
県民大会　第二位
新人大会　第二位

○個人の部
水泳部　嶋屋知明　高総体四百Mリレー　第一位
四百Mメドレーリレー　第一位
高総体百M自由形　第三位
県民大会四百Mメドレーリレー　第一位
望月靖浩　高総体百M平泳　第一位
二百M平泳　第一位
四百Mメドレーリレー　第一位
八百Mリレー　第二位
県民大会二百M平泳　第一位
四百Mメドレーリレー　第一位
八百Mリレー第三位
新人大会四百M自由形　第一位
四百Mメドレーリレー　第一位
四百Mリレー　第二位
高畑紀一　高総体四百Mリレー　第一位
四百Mメドレーリレー　第一位
八百Mリレー第二位
県民大会八百Mリレー　第三位
新人大会百Mバタフライ　第二位
新人大会四百Mメドレーリレー　第一位
四百Mリレー第二位
県民大会四百Mメドレーリレー　第一位
八百Mリレー第三位
新人大会百Mバタフライ　第二位
猪ノ口和彦　高総体四百Mリレー　第一位
四百Mメドレーリレー　第一位
百Mバタフライ　第二位
二百Mバタフライ　第二位
八百Mリレー第二位
県民大会四百Mメドレーリレー　第一位
八百M自由形　第一位
八百Mリレー第三位
二百Mバタフライ　第三位
新人大会四百Mメドレーリレー　第一位
四百Mリレー第二位
二百M背泳　第三位
二百Mバタフライ　第三位
朝岡将人　高総体四百Mリレー　第一位
二百M平泳　第二位
八百Mリレー第二位
二百M個人メドレー　第三位
県民大会八百Mリレー　第三位
新人大会四百Mメドレーリレー　第一位
四百Mリレー第二位
四百M平泳　第三位

昭和61年度

○団体の部
水泳部　高総体　第三位
県民大会　第二位

○個人の部
卓球部　桜田　肇　高総体シングルス　第二位
吹奏楽部　県大会Bクラス　最優秀賞
高総体シングルス　第二位
新人大会二百M平泳　第三位
望月靖浩　高総体二百Mメドレー　第二位
新人大会二百M平泳　第二位
四百M自由形　第三位
猪ノ口和彦　高総体百Mバタフライ　第三位
新人大会百Mバタフライ　第二位

昭和62年度

○団体の部
水泳部　高総体　第二位

卓球部　高総体　第三位
スピードスケート部　鈴木陽一郎　県民大会五千M優勝

昭和59年度

○団体の部
卓球部　高総体　第三位
高総体シングルス第三位
佐藤直史　岩長裕介
高総体ダブルス第三位
軟式庭球部　北畑　博　小向　玲　東北私学大会第三位
高総体シングルス　第二位
藤沢利明　ダブルス　第三位
藤村　隆　高総体ダブルス　第三位
松村　衛　県民大会シングルス　第三位
畠山昌彦　新人大会シングルス　第二位
ダブルス　第二位
西野秀俊　新人大会ダブルス　第二位

○個人の部
卓球部　桜田　肇　高総体シングルス　第二位
水泳部　畠山昌彦　高総体　第二位

昭和62年度

○団体の部
水泳部　高総体　第二位

銘菓の店 山善

お贈物に
お土産に
お茶うけに

盛岡市材木町2－21
TEL (22)2618

肉のデパート
丸岩
盛岡市上田一丁目7の11　TEL(24)6565

本物の書き味！
世界各国の一流メーカー品勢揃い
万年筆の専門店
ペンショップ 中屋
盛岡・大通2丁目
TEL(22)4762

昭和五年十月五日

新渡戸稲造博士来校

講演速記録が見つかる

前出「義正翁を語る会」の会長牟岐梧楼氏（旧十三回生、花巻保健所長）は本年の二回に亘る語る会の記録を文章にまとめて西在家寛教頭の手元に届けられるなど、史実の追究をつづけておられるが、このほど、かつて新渡戸稲造氏が来校された折の講演速記録を入手、学校に寄せられた。

速記録は旧一回生角尾吉美氏（花巻市在住）が中学二年生のとき、自ら発意して記録したというもの。新渡戸博士が来校したという事実は石桜五十年史にも記載されているが、その内容の記録は貴重な資料である。

先駆の精神に就いて（パイオニヤ・スピリット）

法・農学博士　新渡戸稲造氏講演（昭2・10・5）

私は十一年振りでこの盛岡へ来て、種々市街の様子などを見てその変化に驚いたが、殊に興味を換起したのは、三田義正氏が私財を投じて岩手中学校を設立した事である。それで今日は、私から進んで先生方や諸君に逢い、お話をしたいと思った次第であるが、時間が乏しいので機会を見て再会を期し、様々お話も承り、所見をも披瀝したいと思うのであります。

今回は墓参のため来たので、明日直ちに三本木にむかわなければならぬし、今日もこれから前約の所にも参らなければならぬから、僅少の時間で私が思う事の一端を申し述べるのであります。

何でも物を始めると言う事は、所謂創業難で容易なものではない。殊に邦人は人のすることを好意で見ないだろう。彼は売名の為にやるのであって目論んだであろう。と言うように何事でも常に嘲笑、罵りをもって迎える悪いくせがあるので、誰も心から力を尽くして金銭をなげうって仕事に取り掛からないのである。

それを、三田氏が百難を排してこの事業を創成した事は、その人格に偉い所、床しい所があるのである。

諸君は！　歴史も沿革もない、白紙のような新設の学校を双肩に背負って立つのであるから、校風の樹立については責任も重い代わり、極めて愉快な意味があるのである。

よろしくパイオニヤ・スピリット、即ち先駆の精神で立って行かれたい。

自分の信ずるところは千万人といえども吾往かんの意気で進まれたいのである。

「右顧左眄」は甚だ生気のない仕事だと思うのである。

私は外国に居ると右の頭が痛み、本国に帰ると左の方が重い感じがするのである。それは外国に居ると紳士としての作法、少しでも公徳に背くような事があっては自分一人の為でなく、邦人全体に関することなどを思い右の頭が痛くなり、国へ帰ると気兼ねや取越苦労が多いので左の方の頭が重くなるのである。

諸君は、新しい学校の創業をして行くには、下らぬ他人の毀誉に頓着せず、一大新機軸を押し出して立たなければならない。

外国では、独、英、仏、皆このパイオニヤ・スピリットを尊び、米国は特に然りである。イタリヤなどには保守的なところがあるといえようが、西欧諸国一般の風潮は、皆、この先駆の精神を尊ぶのである。

私は今の米国は大嫌いだが、米国の建国精神、即ち、パイオニヤ・スピリットは敬服に値する。従って、これまでの燦然たる文化は、科学なり、文学なり、その他教育、産業に至るまで、彼に一日の長あることを認めねばならぬ。しかしながら、排日法案実施以来、私は米人を大嫌いになり、家内は米国人であるので、今回、帰朝するについても、米国を廻る方が順路で、かつ、ついでに親戚巡りも出来るけれども、私は、米人に逢うことには非常に嫌になったので、日本に真っ直ぐ来た次第である。

私は頻りに諸君にパイオニヤ・スピリットを推奨するが、トラデシヨンな因習とか伝統とかいう精神は、愛国心とか大和魂とかいう精神の涵養などに必要な事ではあるが、之に拘われてはいかぬということである。

聖人の教えにも「温故知新」ということがあるが、「温故」だけでは、この世界文化の進運に伴うことは出来ぬのである。

昔、ナポレオン一世は、ある制度を設ける必要から、国の重臣を集め会議を開いたとき、その重臣の人々は、皆、古い因習や仕来りを述べると、皇帝は声に応じて、アイ・アム・アン・アンセストア、訳すると「私は祖先である」といった事は有名な話である。

諸君は、国家のため、母校のため、このパイオニヤ・スピリットを奮起し、新たなる校風の創成に先駆をつけられたいのである。

この精神で努力していった結果は、十年二十年の後に、お互いに思いあたることがあると思うのである。

終わり

（原文のまま）

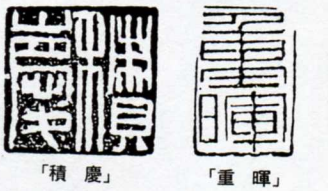
諸谷泰仙氏の遺作展開催される

岩手郡玉山村出身のてん刻家諸谷泰仙氏の遺作展が八月一日から三日まで盛岡市の川徳ダイヤモンドホールで「諸谷泰仙篆刻遺作展」として、同展実行委員会の主催で開催された。同氏は大正二年玉山村東楽寺に生まれ、二歳の時に紫波郡赤沢村遠山正音寺へ移り、岩手中学校を卒業、駒沢大学高師部を経て紫波高校教諭、正音寺の住職をした人。てん刻を石井叟石に師事、戦後間もなく東北で唯一の日展作家として活躍したが、昭和四十一年五十二歳で歿した。今回の展示はその業績を再評価する展観。石材による東洋芸術の簡素、枯淡の美しさが観賞者を魅了した。

展示されたのは、諸谷自身が第一集から三集としてまとめた印影四十七点を中心に、師石井叟石の作品、てん刻制作に使った刻刀などの遺作、書簡類、添削ノートなど。

また同展実行委員会で「諸谷泰仙遺作集」を編集、同時に発刊した。作品七十点のほか、正音寺の現住職石亀全孝氏や不二子未亡人ら遺族、書家で同書の編集に当った佐藤平泉氏（盛岡一高教諭）らの文章を掲載、宗教家としての諸谷氏やその作品と人物を浮き彫りにしている。

上は母校の校訓



「積慶」「重暉」「養正」

「積慶」「重暉」「養正」のてん刻。

石桜旧一回生同級会会報

創刊号発刊

わが同窓会旧一回生は同窓会長松見得明氏をはじめ遠藤貫中学校長等、健康でかくしゃくたる先輩が多いが、本年九月十五日同級会会報を創刊、編集部に寄せられた。

ある日の同級会の模様を報ずるその一部をご紹介しよう。

過ぐる九月五日、山田のホテル陸中海岸で開かれた同級会は例年になく内容豊かで愉しいものだった。この歓びを出席したくても都合が悪かったり、病気などのためにこられなかった人達との共感をあじわうべく、ペンをとった次第である。

駅頭風景

昭和六十二・九・五日十一時改札の方に行ったら、太田代君、鎌田君、遠藤君ともう一人一寸わからない人がいる。近づいてみたら斎藤君であった。北海道からよく来てくれたと心の底から嬉しくなって思わず手を握る。きけば村里君も来ているという。村里君とは卒業以来一度も会ったことがない。はたしてわかるだろうかといったら、だいぶ変わっているからおそらくわからないだろうという。そうしているところへ、斎藤君が来た来たというので指さす方を見たがどれだかわからない。挨拶されてわかっているようなふりをする。おそらく村里君も同様であったろう。車中の人となりじっくり話こんでいたらだんだんわかってきた。五十六年前のイメージを再現して現在とダブらせ、納得がいくまでにはかなり時間がかかった。

車中風景

山田線　盛岡発十一時三十八分（宮古乗替え）。車中には既に藤原君、角尾君が待っていた。

山田に着くまでには三時間余りもあるのだから急いで話しだす必要もあるまいに、もうお喋りが始まっている。席を移動し相手をかえて次から次と話が続いて止むところをしらない。恰も五十年の空白を埋めようとでもしているようである。

ホテル陸中海岸

山ふところを廻った高台に、いわゆるホテルというイメージにわざわいされない建物が海を控えてたっていた。ロビーから一段あがったところに眺望のきくベランダがあったが生憎の小雨で眺望をほしいままにできず残念であった。ここに来る途中の売店のところになにやら得体のしれない太長いものがぶらさがっていた。昆君の説明によればクジラのペニスだとのことである。

協　議

(一)母校六十周年記念事業への寄付について。

一口一万円、一口以上となっているが、いくらにするか。

一回生として一口でもあるまい。二口二万円にしよう。ということにきまる。

質問、既に一万円だした者はどうするか。一万円追加して出すか。そういうことにしよう、ということになる。この時、斎藤君、村里君、鎌田君が即座に一万円をだし、遠藤校長に手続きを依頼する。一同感激。

(二)、同窓会、石桜振興会について。

毎年定時総会を行なって母校の後援と石桜精神の高揚をはかり又地域ごと、職域ごとの石桜会の拡充をはかっており、現在、東京石桜会をはじめ十数か所に及んでいる。母校の記念事業への協力活動も進めていく。石桜振興会というのは昨年十月から始まったもので、その目的とするところのものは、後輩生徒の学習活動、クラブ活動への援助である。会費はないが、クラス会や同窓会などの集会の際に千円ずつの協力金をいただいている。そういうわけだから今日も出してください。お願いします。

即座に拠出。

その他

次回開催について。花巻に決まる。なお、それまで生きておれるかどうかわからないが、卒業六十年記念同級会は函館でということになる。次いで遠藤校長より母校の状況について説明があり、以上で閉会。

懇親会

ひと風呂浴びて広間へ。今宵の設営は全て昆君に一任。既に部屋ごとにお土産までくばられていて、さすがに万遺漏がない。その気配りに恐縮する。

やがて閉会。昆君の挨拶。道又君の乾杯。お互い高齢ともなれば酒量は少ないが口の方はますます達者で話がはずんでいく。数年いや五十数年ぶりの人もいるのだから、懐かしさが溢れて歓談つくるところをしらない。そのうちに誰かが一寸話を止めろ、ボツボツ歌でもうたおうや。と叫ぶようにいう。誰かと見たら斎藤君である。

かわきりに私が時計台の歌をうたう。発言者の責めを果たすべく斎藤君が北国の人を歌って喝采を得てご満足。藤原君が紫波郡代表として、詩吟。川中島、短歌朗詠。啄木の、故郷の山にむかいて。道又君の、江差追分、都山流の師範だけあって余韻じょうじょうとして哀感をそそる。ここまできたら突然太田君が立ちあがって、これは遂この三月なくなった小原君から教わったものだといって、豪傑節をやりはじめた。小原君が岩中時代ときどきやったものだから、まだ記憶している方もあるかと思う。

これには一同、太田君にこんな隠芸があったのかとおどろいたのであった。

時はどんどん過ぎていく。既に九時をまわっている。名残はつきないが、宿の迷惑も思い校歌斉唱にうつり愉悦そのものの顔を部屋にはこぶ。

OB会コーナー

軟式庭球部の会合盛ん

○母校の村上照五郎先生（第2回）の県軟式庭球連盟の理事長就任祝をかねて軟式庭球部OBの村桜会第20回会合は7月25日夜ホテルロイヤル盛岡で村上先生夫妻を招いて開催、横浜からかけつけたOBもあって28名の盛会だった。なお有志は9月17日昼はゴルフ、夜は菜園竹川でテニス・ゴルフ談義を交わした。

体操部OB会　8月7日錦水で20名。

卓球部OB会　3月15日盛岡ターミナルホテルで30名。

アイスホッケーOB会　4月28日、内丸病院5階喫茶ルームで35名。

野球部OB会　6月21日学校で現役との親善試合のあと甲子園酒場で10名。

剣道部OB会　7月25日丸岩で30名。

水泳部OB会　8月15日新設のプール見学のあと彩園子で30名、本年も会合は盛んである。

編集後記

なかなか重い腰が上がらないという言葉があるように、昭和五十五年以来休刊されており、久々という感じである。新聞を作るなどという作業はまったく経験がなかったので、一時はどうなることかと心配したが、松見先生、牟岐先生、山口北州印刷の社長さん、編集の沼倉さん、教頭先生、足沢先生、他たくさんの方々の御協力のおかげで何とか刊行にこぎつけることができた。感謝の気持ちを込めつつ編集後記とした い。

（K）

いい視力・イツマデモ
メガネの水晶堂
〒020 盛岡市中の橋通1丁目（水晶堂ビル）
中の橋店　☎盛岡0196(53)3434
中央通店　☎盛岡0196(22)6323
サンビル店　☎盛岡0196(22)9595
コンタクトルーム（水晶堂ビル3F）☎盛岡0196(51)3636

トレーニングウェアー
学生衣料・高級紳士服
一般卸
東北総代理店　佐藤被服
本社　盛岡市肴町　TEL　(代)(24)3797
営業所　紫波郡矢巾町流通センター　TEL　(代)(37)2661

カメラの一番安い店・スピード写真
カラー・D.P.E・各種出張撮影
盛岡カメラ
池ノ谷　忠　正
材木町信用金庫向　TEL(22)7457

割烹
「こう弥」
盛岡市菜園2の8の36
TEL　(23)2622